

医学教育モデル・コア・ カリキュラムの改訂に向けた 基本方針（案）

医学調査研究チーム座長
小西靖彦

令和3年10月21日

コアカリ改訂に向けた基本方針(案)

● 基本方針(案)

1. 20年後以降の社会も想定した資質・能力の改訂
2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開（学修目標の再編成と方略・評価の整理）
3. 医師養成をめぐる制度改正等との整合性の担保に向けた方策の検討（国家試験、共用試験の公的化と医学生の医業の法的位置付けを踏まえたシームレスな参加型臨床実習の推進、国際標準への対応等）
4. コアカリのスリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化
5. 研究者育成の視点の充実
6. 根拠に基づいたコアカリ内容
7. 歯学・薬学教育コアカリとの一部共通化

基本方針(案)

1. 20年後以降の社会も想定した資質・能力の改訂

- 資質・能力に「総合的に患者・生活者を見る姿勢(案)」
「情報・科学技術を活かす能力(案)」の2項目を追加
- 人口構造の変化、多併存疾患、多死社会、医師偏在、増大する医療費、感染症を含む医療緊急事態等の危機に対応できる医師の養成
- AIを含めた情報・科学技術の進歩への対応とそれに伴う倫理
- 資質・能力に記載されていた「医療の質と安全の管理」を前文に移動

基本方針(案)

2. アウトカム基盤型教育のさらなる展開（学修目標の再編成と方略・評価の整理）

- 「資質・能力」と紐づけた学修目標

- A～Gの構造は発展的に解消
- 学修目標の抽象度は現状を維持

- 資質・能力、目標、方略、評価の4章建て構造の検討

- 各大学の自主性を尊重しつつ、推奨と例示を中心とした方略と評価の展開
- 方略と評価は網羅的には記載しない

(例)

- 専門知識に基づいた問題解決能力
 - C-1 生命現象の科学
 - D-1 血液・造血器・リンパ系
 - E-1 遺伝医療・ゲノム医療
 - F-1 症候・病態からのアプローチ
- 社会における医療の役割の理解
 - B-1 集団に対する医療
 - B-2 法医学と関連法規

基本方針(案)

3. 医師養成をめぐる制度改革等との整合性の担保に向けた方策の検討（国家試験、共用試験の公的化と医学生の医業の法的
位置付けを踏まえたシームレスな参加型臨床実習の推進、国
際標準への対応等）
 - 診療参加型臨床実習の実質化
 - 医学生が臨床実習において行う医業の法的位置づけの明確化
 - 臨床実習前、臨床実習後、臨床研修後のマイルストーン
 - 国家試験・共用試験との評価における整合性
 - コアカリ学習目標と国家試験出題基準、共用試験の学修評価項目
 - 医学教育の国際標準との整合性
 - 医学教育分野別認証での教育プログラム、学修者評価等
 - 専門研修・生涯研修との整合性の検討

基本方針(案)

4. コアカリのスリム化の徹底と読み手や利用方法を想定した電子化
 - 専門医レベルの記載内容、稀少疾患の記載内容の削減
 - 紙媒体での出版を重視する一方で電子化による利便性を生かす
5. 研究者育成の視点の充実
 - リサーチマインドの涵養
 - 臨床医養成を含む多様なキャリアパス
6. 根拠に基づいたコアカリ内容
 - 医学教育の学術的エビデンスと教学データに基づいていること
 - 海外の状況を参照していること

ご審議いただきたいこと

1. 学修目標を資質・能力に紐づけて記載する構造へと変更することについて
2. コアカリを方略と評価を含める場合、どのような構造や範囲が望ましいかについて
3. 臨床研修との一貫性に基づいて、実習と研修の到達度をマイルストーンで記載することについて
4. コアカリの評価の記載において、国家試験・共用試験との整合をとることについて
5. スリム化の方策と電子化の必要性について
6. 研究者育成の視点をコアカリにおいて充実させる方策について